

歯科のこの100年の歩みと今後の展望 —ICD100周年に向けて— (Ⅲ)

Progress in Dentistry During the Past 100 years and Future Prospects
—For the 100th Anniversary of the ICD— (III)

企画要旨

昨年、国際歯科学士会（International College of Dentists 以下ICD）は、設立100周年を迎えました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い名古屋で開催される予定であった100周年記念会は開催中止となり、誠に残念なことです。

日本部会の国際担当理事の千田 彰先生がICD国際会長に就任され、本年6月には、2年ぶりに開催された日本部会の総会・認証式では国際会長としてご挨拶頂きました。

本企画は、ICD100周年を迎えて永年歯科医学の現場において活躍されている著名な先生方に昨年に引き続き、第三弾として8名の先生に原稿執筆を頂きました。

それぞれ、国の立場からの歯科医療、歯科医療行政の展望、100年前の日本の歯科医療、歯科疾患の変遷と展望、超高齢社会の歯科医師の重要性、歯科材料の変遷と展望、障害者歯科医療の変遷と展望、開業歯科医の医療の転換など内容充実なものとなっています。

主な内容とポイント

■国政の立場から今後の歯科医療の展望、医科と歯科の格差是正

島村 大

■今後の歯科医療の展望と歯科医師の役割

田口 円裕

■明治期における歯科治療の変遷

大野 爾英

■日本人の歯科の疾病構造と治療の変遷並びに今後の展望

花田 信弘

■一開業臨床医として歯科の近未来に願うこと

—診療室完結型から地域完結型医療への意識改革のすすめ—

米山 武義

■超高齢社会での歯科医師の重要性 —“オーラルフレイル”対策から—

飯島 勝矢

■歯科理工学からみた歯科材料の変遷と今後の展望

宮崎 隆

■障害者歯科医療の変遷と今後の展望

弘中 祥司